



妙たえの光ひかり

復刊119号

行事受付のコンビ

新潟市西蒲区 石田武嗣さん(70歳)

新潟市西区 大隅総介さん(77歳)

お寺は古くからの檀家やその分家筋の家で守られていて、しかもその役員は高齢者が多いという一般的なイメージがある。しかし妙光寺は安穩廟の縁で入檀した方が従来の檀徒数を越え、役員にも就いている。しかも75才定年制だから中には50代の役員もいる。

石田さんは先祖代々の檀徒で61才の定年退職を機に、地区の推薦で世話人になった。ずっと金融機関勤務だったので会計監査となり、おなじこの前任者が引退されたので受付係をお願いして10年になる。

大隅さんは定年退職翌年の17年前、32才の長男が心筋梗塞で急死された。これを機に墓を妙光寺に求め、以来命日の毎月13日に墓参りを欠かさない。その後送り盆スタッフに加わっていただき、さらに手不足の受付係もお願いして石田さんとのコンビが始まった。2人のコンビも6年目を迎えた。

(院首記) (2ページに続く)

行事案内

春のお彼岸 ～法要と映画上映会～

3月21日(月)・祝

午前10時半 安穩廟法要
 11時 春季彼岸法要…本堂
 12時 お斎(お持ち帰り弁当)
 午後1時半 映画『ピア』上映…大広間
 3時半 トーク
 4時半 終了

お彼岸は心の偏りをなくして仏様の教えを修行しましょうという行事です。今年は午前中に法要を、午後からは在宅医療をテーマした映画『ピア』の上映とトークがあります。

※映画は定員50名で事前予約が必要です。詳細は別紙チラシをご覧ください。



ご妙判「お大会」 お稚児さん募集

4月29日(金)・祝

午前8時半受付開始
 江戸時代から続く伝統行事ですが、感染症対策のため、昨年同様に法要のみで境内のお練り(行列)は行いません。

あわせて法要に出仕していただくお稚児さんを募集します。(感染症対策のため先着10名までとさせていただきます。)
 ※詳細は別紙「ご妙判お大会」のご案内をご覧ください。



月例信行会 毎月第一日曜日

3月6日・4月3日・5月1日・6月5日・7月3日

午前7時～9時
 会費 千円(各自賽銭箱にお願いします)
 予約申込み不用。当日直接お寺へお越し下さい。
 お参り、法話、作務、朝粥の朝食、コーヒータイトム等があり、交流の輪も広がります。



ボランティア 毎月15日

午前9時～11時半 午後1時～3時
 堂内や境内の清掃等をお願いしています。都合の良い時間にお越し下さい。昼食はご持参願います。



あとがき

表紙の「信心プラス」のお2人は、檀徒と安穩会員のコンビです。私自身も安穩会員としてお寺にお世話になり、古くからの檀徒の皆さんとも仲良くさせていただいています。年を取ってから年齢・性別・職業を超えたお友達ができるのは、お寺ならではのことで、ご縁に感謝しています。お寺は敷居が高いと感じている方は、まず毎月の「ボランティア」や「信行会」からいかがでしょうか。

(新倉理恵子)



新潟市西蒲区 石田武嗣さん(70歳)

新潟市西区 大隅総介さん(77歳)



いつも他人のために
石田武嗣さん

石田さんは高校を卒業して地元の信用組合に勤め、定年まで43年間主に営業担当だった。好景気の時代は集金や貸し付けも楽にできたが、その後は厳しくなる一方で大変だった。しかしどんなときでも手を抜かず、お客さんとの関係を大事にしてきたので、不景気になってもお客さんにとっても助けられた。退職後のいまでも個人的な付き合いの続く人が多いという。

生まれ育った町内でも若いときから役員を頼まれて会計を10年間、その後も各委員や副会長までやった。

今は『傘鉾祭』で知られる地元夏祭りの世話役だ。

「親父が再婚で息子の自分と年齢差があり、30才過ぎから高齢の親父に代つて親戚付き合いをした。でもお寺は家族の海水浴を兼ねたお盆の墓参りが楽しみなくらいで、関心もななく親父任せだった。役員になってから、以前仕事で幾つかのお寺の工事資金融資の為に財務内容も見てきたけど、妙光寺がここまで資料を開示して詳しく経理をやっていることに驚いた。だから開創700年身延山大法要も、住職交代式も無事に出来たのだと思う。それでも年々行事の参加者が高齢化して減っているのが気にかかる」と言う。

元気の秘訣

大隅総介さん

県内の長岡市生まれで、大学卒業後全国に180店舗を持つ大型小売りチェーン店に就職。定年を新潟店長で迎えた。当時の店長は、パートも含めて700人の従業員やその親族の冠婚葬祭に顔を出す時代だった。労務管理だけでも忙しい上に、店舗の火災、衛生、事故に備えた役所の対応も大変。さらに子供のエスカレーター事故や社員個人の金銭問

題まで、裁判所からの呼び出しが何度もあったという。

「一度勤めた会社を簡単に辞めるなどという、厳しかった親父の教えのおかげです。親父が50才近いときに、5人姉姉の末っ子に生まれたので、可愛がつてももらいました。衣料品卸を営んで、朝4時から商品の準備や金勘定をしていた姿を見ました。夜は芸者さんとの付き合いもありました。一方で父は町内会長を20年、その後市会議員20年、さらに公職にも沢山就きました。家族には黙つて市の広報車や救急車を寄付したり、生活困窮者には就職の世話や生活保護の申請するなど、人の面倒をよく見た人です。友達は沢山作れ、年齢、性別、職業を問わず色々な人と交わり自分にはないものを学べ、等々教えられました」。

自身も週4〜5回の水泳、定年仲間と借りた畑で育てた野菜を無料で配布、週2日小学校児童の放課後見守り等々、健康維持とボランティア活動で過ごす元気な毎日を通している。17年前に安穩廟を契約したときに、妙光寺の記憶が蘇ったと語る。「中学生の夏の2年間、臨海学校でこのお寺に泊まりました。今の安穩廟のあるところが西瓜

畑でしたが、それを悪戯仲間と一緒に盗んで食べたのです。本堂に正座させられて、御前様のお祖父さんに当たる先々代にみっちりお説教された懐かしい思い出です」

お寺でつながる

大隅さんはお父さんの教え通り、これまでに身延山や大分、インドやマレーシアの海外まで妙光寺の団体参拝旅行に参加し、多くの人と親しくなった。お墓が隣同士で歳の若い埼玉のTさんからは、「新潟の親父」と慕われて度々泊まる仲だ。また福島県から避難中、毎年妙光寺で震災犠牲者の合同供養祭を主催してきたWさんとは畑の仲間。この借りた畑の管理者で元高校ラグビー部監督のYさんと、やはり福島の安穩会員Oさんがラグビー仲間だったとわかったなど、驚く話題に事欠かない。

石田さんは「お寺は敷居が高いと言われることもあるがそんなことはない。来ているうちに色々な人と親しくなれたし、気持ちがあらぐ等々良さがたくさんある。もっともっと多くの人に気軽に来て欲しい。そのためにも参加しやすい行事になるよう工夫していった方が良く考えている」と語ってくれた。

安 穏

小川良恵

日蓮聖人の故郷・房総

2月の団体参拝旅行は自粛に

2月に予定していた房総への団体参拝旅行は、県内の感染拡大と「まん延防止等重点措置」の実施もあり、残念ながら自粛し延期しました。2019年秋の身延山以来3年ぶりとなる団参の予定だったため、私もとても楽しみにしていたのですが、情勢を考えますと致し方ありません。

今回お参りする予定だったのは、日蓮聖人がお生まれになった小湊周辺です。晩年を過ごされた身延山や、亡くなられた池上には団体参拝をしているのですが、房総はなかなか機会がありませんでした。いずれまた日を改めて実施のつもりです。

日蓮聖人の最後の旅
— 目的の地は、常陸の湯 —

さて、日蓮聖人が歩まれた道程について、少し興味深い話があります。身延山で晩年を過ごされていた日蓮聖人は、体調不良に悩まされておりました。療養のため、寒さ厳しい身延の山から、常陸の湯——現在の茨城県にある湯治場へ向かう途中、武蔵国の池上で61歳の生涯を閉じられたことは、ご存じ方も多いと思います。

ここで日本地図を思い浮かべてみますと、山梨県から茨城県へ湯治の旅へ出るというのは、随分遠出のように思えます。

今のように高速道路があるわけでもなく、馬を使ったとはいえ、さぞ難儀したのでないだろうかと思像に難くありません。療養ならば、富士山の周辺は温泉地が数多くあり、熱海やさらに暖かい南へ向かう手段もあったのではないかと、ふと疑問に思うことができました。常陸の湯は、身延山を領地とする波木井氏と同じ南部一族が治めていたことから、身の安全を考えて、という理由は大きかったのでしょうか。それにしても最晩年の日蓮聖人がなぜそんな遠方に……と思わずにはいられません。

日蓮聖人は故郷を目指した

この疑問を、池上のある上人に伺ったところ「常陸に向かう前に、房総に立ち寄ろうとしていたのではないかと仰っておられました。ご自身の死期を悟り、生まれ故郷を一目見たい、両親の墓にお参りしたいと願ったのではないかとこの仮説です。雑談の席でのお話なので、はっきりとした根拠はないのですが、一理あると思えました。それと同時に、日蓮聖人の人間らしさが感じられるようでした。

◆角田お経会 1月23日

地元、角田檀徒の皆さんが毎年新年に行うお経会。コロナ禍で二年ぶりの開催です。団扇太鼓の打ち方やお経の読み方など、お上人のわかりやすい手ほどきが好評でした。



◆厄除祈願祭 2月5日・6日

厄年にあたる方をはじめ、各種ご祈願を希望される皆さんに「加持祈禱」を行う妙光寺の厄除祈願祭。祈願のお礼にはお上人が丁寧に名前を入れます。今年は0才の赤ちゃんから90才まで48名のお申込みがありました。



春に備えて

雪の少ない今年、コブシの花芽に近い春を感じます。本堂脇の山林から切り出した丸太で作ったベンチを、境内に置く準備中です。



寺のうごき 冬～春

◆大晦日～除夜の鐘～
2021年12月31日

大荒れの除夜でした。そんな吹雪の中でも100人余りの皆さんが訪れ、除夜の鐘で煩惱を払い、恒例の福引で新年を迎えました。



◆正月 2022年1月1日・2日

コロナ感染者数も一時落ち着いた元旦。家族そろって新年のご挨拶に来られる方たちでお寺は賑わいました。妙光寺お茶クラブのお抹茶を頂くのも元旦の楽しみです。



弥彦・角田山塊 聖地巡礼マップ

日本海沿いに連なる角田山・多宝山・弥彦山・国上山を「弥彦・角田山塊」と呼びます。

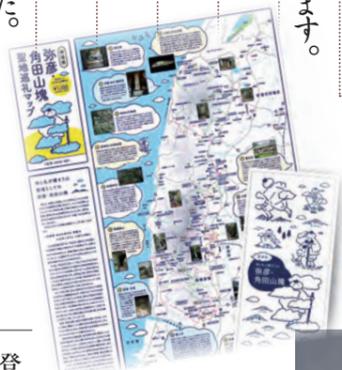
海岸からいきなり突き出した山容は非常に独特で美しく、

越後平野に住む人たちに親しまれてきました。

日帰り登山に手頃で、春の山野草が美しいこともあり、山好きには大人気です。

実は古くから信仰の対象の山でもあったことが、今では忘れられています。

今春、この山塊を「神と仏が棲まう山」として「聖地巡礼マップ」が発刊されました。



妙光寺受付でも販売中 1100円



小林弘樹さん (30歳)
2008年創刊の地域誌「Niigata Interview Magazine Life-mag」
(ライフ・マガ) 編集発行人。

Q そもそも「聖地巡礼マップ」を作ろうと思ったいきさつを、聞かせてください。

小林 2016年出版の「Life-mag 寺泊・弥彦・岩室・巻編」の取材をしたのがきっかけです。僕自身は岩室の出身で、地元の特集をやりたいと思って出版しました。この山塊では何といっても彌彦神社が大きい存在なので神社を中心に特集を組みました。その編集がほぼ終わった時に巻図書館で、昭和58年(1983年)に書かれた『角田弥彦山塊の聖所形成と修験道』という論文をみつけれ

た。それが本当に面白かったです。この山塊には古来修験道の伝統があつて、多くの宗教的な事績がある。そんな風にとらえたことがなかったもので、とても興味を惹かれました。でもその時は「寺泊弥彦・岩室・巻編」の内容がほぼ完成していたので、最後のページに数行載せただけでした。その論文を書いた方が、妙光寺の現院首・小川さんでした。

Q 40年前に書かれた論文ですね。

小林 大学院の修士論文だそうです。小川さんには、眠っていた論文をみつけて

Q その後の取材はどうなりましたか？

小林 2018年に地元紙新潟日報の「おとなプラス」で記事を書く機会があつて、あらためて取材をしました。その時は、角田山から弥彦、国上まで縦走もしてみました。角田山の灯台コースから

Q 縦走してみた感想は？

小林 とても気持ちよかったです。昔の人たちには及ばないと思いますが、修行者の気持ちを想像しながら歩きました。やはり自然の中からパワーをもらおうという感覚は、よくわかるように思いましたね。



Q そこから3年経って、マップの発刊ですね。

小林 自分なりにまとめたといつづつと書いていたのですが、実は2019年春に新潟市議会議員選挙に立候補し、当選させていただきました。市議の仕事はもう少しゆとりがあると想像していたら、思っていた以上に大変で地域誌の仕事が全然できなくなっていました。でもコロナ禍で地域の集まりが中止になったので、議会がない時期には時間ができました。それで2021年9月〜11月に取材をしてマップを作りました。

Q 地図という形にしたのはなぜですか？

小林 地図に落とし込んだ方がわかりやすいです。そしてみなさんに、一部分だけでも楽しく歩いてもらいたいからです。観光だけではなく、聖地としての「弥彦・角田山塊」を味わってほしいと思います。
Q マップをまとめてみて、あらためていかがでしたか？

小林 弥彦山といえば神社と私たちは考えていますが、時代によって信仰の形は変わるものと実感しました。「弥彦・角田山塊」は独特の形をしているので、古来からランドマークになっていたでしょう。そして向かい側には佐渡があり、海上交通も盛んだったはず。縄文時代の遺跡もある地域で、古墳もあります。

古来からの修験道があつて、そこにいろいろな時期に様々な信仰が入ってきたんです。京都の聖護院は修験宗総本山ですが、取材をしていくと神主さんの中には「もとは聖護院とつながりがある」と話す方もいました。鎌倉時代には親鸞も日蓮も越後国に来ていますし、曹洞宗も入ってきます。明治5年の修験禁止令の時には、国上寺に11人の山伏がいたと記録に残っています。いまも羽黒山伏が、年に一回祈禱に来ているというお宅もありました。この地域には多くの宗教的な事績があるだけでなく、神仏習合の物語が伝承されているんです。この物語を大切にしていきたいと思いました。

Q マップには、おまけもついていますね。

小林 オリジナル手ぬぐいとマップを、からむしの縄で結んであります。「岩室からむしの会」のみなさんで作っていただきました。からむしは麻の一種です。地域

のお土産になるといいな、と調べて企画しました。

Q 表紙には「1合目」とありますが、これは？

小林 「第1版」ということです。これからみなさんに情報や意見を寄せていただいて「2合目」「3合目」と版を重ねていきたいと思っています。

Q 聖跡に番号がついていますが、この順にまわるのがお勧めですか？

小林 確かに①の妙光寺は岩屋の七面天女伝説始め、国上寺との関わりが強い重要な歴史があります。番号は北からの順で、興味のあるところや一部分を歩いたりしていただければいいと思います。とにかく多くの方に「弥彦・角田山塊」を歩いていただきたい。いま山がかなり荒廃しているんです。倒木も多く、生態系が崩れています。手入れをせずに放置されている林も、少なくありません。みなさんに山を訪ねていただいて、興味を持つてもらえれば、もつときれいにしようということになって、山の環境の回復につながっていくと期待しています。

Q これからどんなことをしていきたいですか？

小林 これは十年以内に叶えたい夢ですが、本物の修験者——山伏の方に来ていただいて、一緒に聖跡をまわるイベント

小川院首の修士論文

『角田弥彦山塊の聖所形成と修験道』抄訳
妙光寺には宗派の異なる国上山の国上寺・真言宗と関係する伝承がたくさんある。妙光寺の岩屋と国上寺の本堂裏の穴がつながっていて岩屋から入った犬が国上寺の穴から出てきたという話は双方に伝わっている。そもそも妙光寺創建時の三箇寺に関わった3人の僧侶は国上寺の弟子だったとされている。調査していくと、この山塊のあちこちに修験道の伝承があることがわかった。霊跡とされる巨木・滝・大岩などもある。「修験道の修行場は金属鉱床で、言葉として山師は山伏に繋がる」という説もあり、ここには間瀬銅山をはじめ複数の銅山跡がある。現在の燕市の銅器産業はこれに由来する。修験は山だけでなく「海の修験道」の考え方もあり、日本海を通じて各地の修験道場とつながっていた可能性もある。角田・弥彦・国上の3つの山は、古来は修験の山として一体だったのではないが、その奥には、死後の靈魂は山に還るとする日本人の死生観・自然観にも通じる。

をやりたいですね。古来からこの地域が「神と仏が棲まう」場所だということを、目に見える形にできると思っています。滝行や山駆けなどの体験会からでも良いので始めて、弥彦・角田山を再び聖地にしていきたいです。

山に法螺貝が響いたらすてきですね。ありがとうございます。

(聴いた人 編集部・新倉理恵子)
修験道…山にこもって厳しい修行を行う日本古来の山岳信仰。修行者(修験者)は山伏と呼ばれ、病氣平癒などの祈禱を行った。明治5年(一八七二年)政府は仏教と神道を分離させ、修験道は禁止となり解体した。これが廃仏毀釈である。

地涌の菩薩たち 『從地涌出品第十五』

法華經二十八品のうち、『安樂行品第十四』までの前半を「述門」、
『從地涌出品第十五』からの後半を「本門」といいます。

「本門」とは、〝仏様がその本来の姿を説き表した教え、という意味です。
「述門」までの仏様は、私たちに分かりやすいように顕された仮の姿であることが、
これより明かされていきます。

別世界の菩薩たちが布教を願い出る

從地涌出品の前半は、本門の序文にあたります。別の世界から来て、お釈迦様の説法を聞いていた八恒河沙（8つのガンジス河の砂の数）を越える菩薩たちが、釈尊滅後の娑婆世界—私たちの世界での布教を願い出ました。

大地の裂け目から現れる無数の菩薩—地涌の菩薩たち

しかし、お釈迦様はこの申し出を制し、「すでに娑婆世界には、六万恒河沙（6万のガンジス河の砂の数）の菩薩と彼ら一人ひとりに六万恒河沙の従者がいて、自分の滅後には、法華經を弘めてくれることになる」と告げられます。この言葉の直後に、世界の至る所に地震が起こって大地が裂け、地中から数限りない菩薩たちが登場します。彼らは“地涌の菩薩”といって、皆仏様に近い光り輝く姿をしていました。そして皆、お釈迦に親しみと敬意を表されました。

四大菩薩

また、その中には四大菩薩と称される特に優れた指導者もいて、菩薩たちの先頭に立っていました。この四大菩薩は、妙光寺本堂のご本尊であるお釈迦様の両脇に従っている「上行菩薩」「無辺行菩薩」「浄行菩薩」「安立行菩薩」です。

私たちのいる世界にこそ、導き手がいる

私たちを導いてくださるリーダーは、別の世界では

なく、我々のいるこの世界にこそいたわけですが、しかし、彼ら「地涌の菩薩」の出現に、その場にいた人々は大変に驚きました。そこで、弥勒菩薩が代表して、「自分たちは未だかつてこのように数多くの、尊い姿をした菩薩を見たことがない。また、随分とお釈迦様と親しげにしているが、いったいどこでどのように修行をしてこられた方々なのでしょうかと尋ねられました。

お釈迦様は、弥勒菩薩とその場に集う人々に対し、「あなたたちは、心一つにして、精進の鎧を着、堅固のこころを起しなさい」と告げ、未だかつて聞いたことのない真実を明らかにすることを予告されました。そして「地涌の菩薩」は、遙か遠い昔にお釈迦様が悟り得たときの最初の弟子であることを説かれるのです。

お釈迦様の教化の真実を明かす「本門」へ

この時、お釈迦様は菩提樹の下で悟ってから40年ばかりです。いくらなんでも、この短い間にこれほどの数の弟子を育てたのは、いかなる力なのか。弥勒菩薩はさらに、問いを重ねました。「たとえて言うならば20代の青年が、100歳を過ぎた人々を指して、自分の子どもであると紹介するようなもので、とても信じられない」と言うのです。また「この場にいる自分たちはお釈迦様を心から信じているため、疑いはしないけれども、後世の人々のために詳しく説明してほしい」と願います。そして、いよいよ「本門」の教えが説かれることになるのです。

イノシンシ出演

境内にイノシンシが出没しています。夜行性で土中のミミズを食べに来ているようですが、日中の夕方目撃していますのでお参りの際にはご注意ください。

在宅医療を主題にした映画『ピア』上映

ひとり暮らしでも住み慣れた自宅で最期を迎えられる、そんな時代が来るかもしれません。そんな在宅医療を描く映画『ピア』を、3月21日のお彼岸法要後、大広間の特設大型スクリーンで上映します。上映後には院首夫人なぎささんを看取つて頂いた訪問診療医・斎藤先生他のお話と質問の時間もあります。コロナ対策で定員少なめです。ですので早めにお申し込み下さい。

主な年間行事予定とコロナ対策

オミクロン株の感染拡大が見通せませんので、年間行事は今年も昨年同様にコロナ対策方式を基本とします。

2月に計画した早春の房総団体参拝は延期しました。3月の春彼岸はお弁当をご用意し、午後の映画をお申込みの方には密を避けて食べていただきます。4月29日(金)のお盆ご祭りは、午前みの日程で行います。お盆のお参りは分散の日取りを改めてお知らせします。送り盆は8月27日(土)に、昨年断念したcobaさんによる野外での追悼演奏会を計画中です。生前法号授与

角田山妙光寺インフォメーション



『池の上安穩廟』の山側を整地

式とお会式は11月6日(土)です。しばらく中止中で希望の多い『身延山・七面山団体参拝旅行』を、9月末に計画しています。それぞれ改めてお知らせしますので、ご予定ください。

山側墓地移転計画検討中

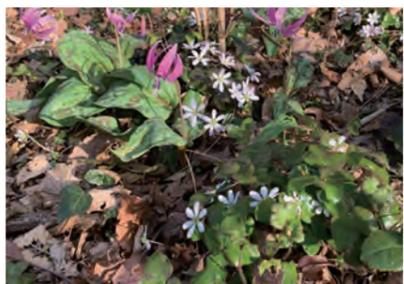
近年の豪雨多発で山側墓地が「土砂崩落危険地帯」に指定され、墓石移転が喫緊の課題です。移転先の敷地に問題はありますが、経費・行政手続き等が難問です。放置できませんので役員会で検討を開始しました。その節は関係者に直接お知らせしますので、ご理解とご協力をお願いします。

山林整備の進展

「池の上安穩廟」の山側を整地しました。倉庫にしているコンテナを山裾に移転し、銀色の外壁が目立たないようにします。資材置き場もその奥に移転します。手前を植栽してさらに緑地帯を広げ、空いたコンテナ跡地は、参拝者駐車場にすることを計画しています。費用の都合もあり徐々にしか進められませんが、やがては本堂前からの景観も大きく変わると思います。

古墳調査その後

調査団長橋本先生が、県内各所の調査で多忙のため報告書が遅れています。2月末新潟市埋蔵文化財センター主催の「新潟市遺跡発掘調査速報」で、先生の「角田浜妙光寺山古墳をめぐると問題」の講演がありました。今後は角田山周辺の他の古墳



と併せて、国史跡となるよう進めたいとお考えです。3月末には現地で地元の子供たちに、古墳と周囲に咲く山野草を説明する会も開かれます。また妙光寺敷地内からの登山道作りも有志の手で始まります。関心のある方はお問い合わせください。

角田浜海岸に有名ラーメン店開店

県内ではテレビ報道でご覧になった方も多いと思いますが、近くにラーメン店が開店します。新潟大学前にあった老舗が、先頃店主の高齢で閉店。煮干し出汁のあつさり味黄金スープと細麺で、世代を超えて親しまれた名店でした。

これを子ども時代から食べて育ったという世界的音楽家の難波さんが、この味を絶やしたくないと引き継ぎ、以前の賑わいを取り戻そうという計画が進む角田浜海水浴場駐車場で新たに開業します。難波さんがお参りを兼ねて挨拶と相談に来られました。5月の連休過ぎには開店、冷凍宅配もするそうです。参拝後の楽しみにお出かけいただけます。

西蒲区役所広報誌に掲載

院首による「終活の考え方」が、3月6日発行の西蒲区役所広報誌に掲載されます。講演会が開けないため、質問形式になったものです。区内の方はご覧下さい。妙光寺受付でも入手できます。



毎年4月29日の『ご判様』は、300年続くとされる妙光寺の伝統行事です。日蓮聖人が遺したご判(印鑑)をご開帳した行事ですが、往事は地域全体が信者であるかどうかにかかわらず農作業を休み

妙光寺のお宝紹介 vol.7

『お稚児さんの衣装』

ました。境内の外にまで人が溢れ、賑わった大きなお祭りでした。

そのお練り(行列)と法要に出仕するお稚児さんの衣装です。多くのお寺の稚児行列は、住職交代のような何十年に一度の大事業でしか行われません。そのときは貸衣装です。それが毎年お練りを行う妙光寺では、12人分の衣装を自前で揃えています。

昭和55年ころ、長年お稚児さんのお世話係を務めてきた檀徒の故寺尾清一さんが、高齢で引退する記念に「衣装も古くなったので」と一式



を新調して奉納されました。それが現在の衣装です。

その注文の際に、それまでの古い衣装を見本に送った京都の法衣店が「今これだけの生地や冠を作る技術は、京都でもありません。できる限りのもので精一杯やらせていた



きます」と言っておくれました。昨今の『ご判さま』行事は昔日の賑わいもありません。でもお稚児さんだけは毎年たくさんの希望者があります。それは、貸衣装とは一

見して違う、この衣装のおかげもあるかもしれません。



Q そとうば 卒塔婆の意味を教えてください

今から2500年ほど前に亡くなられたお釈迦様を供養するため、仏舎利(お釈迦様の遺骨)を納める塔が8基建てられました。この塔を古いインドの言葉で、「ストゥーパ」と言いました。これが「卒塔婆」の起源とされています。



ストゥーパは後に有力者の墓として作られるほか、やがて仏教信仰のシンボルとして、仏教聖地や寺院に建立されるようになります。皆さんがご存じの、三重塔や五重塔もストゥーパの一種で、お経などが納められています。一方、庶民の間では豪華な塔を建立することは難しく、石を積み上げた五輪卒塔婆や、木柱の角塔婆が使われていました。そして、亡くなった人の供養を日常的に行うため、私たちが日ごろ用いている卒塔婆が作られるようになりました。卒塔婆とは供養塔建立の簡素化された形というわけです。



東南アジアのストゥーパ

法華経には、「あなた方がどんな場所にいたとしても、塔をたてて供養をなさい。何故ならそこは仏様が教えを説かれる場となり、悟りを得ることが出来るからです」と説かれています。塔をたてるとは、亡き人の供養のみならず、仏様への供養でもあり、仏道修行でもあるのです。皆様が亡くなられた方々の為に、法事や施餓鬼法要で立てる卒塔婆も同じ意味があります。